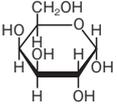
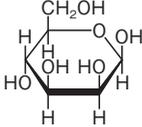
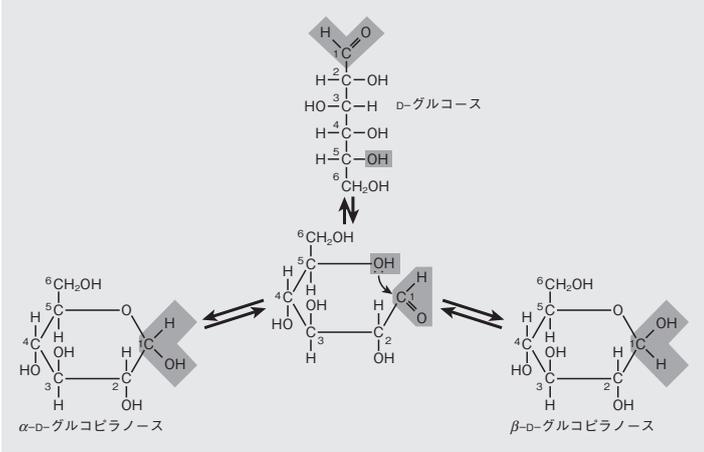


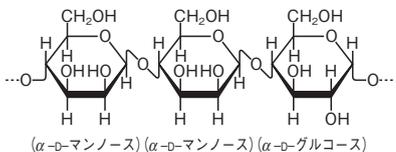
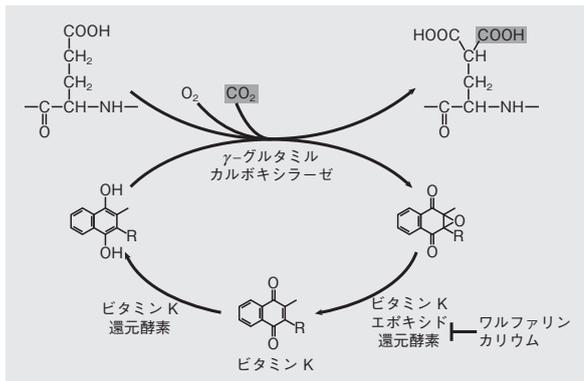
正 誤 表

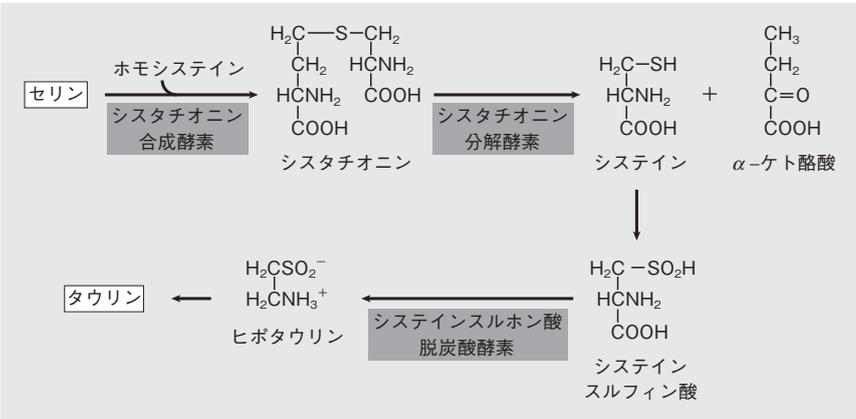
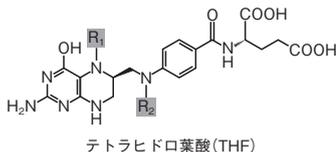
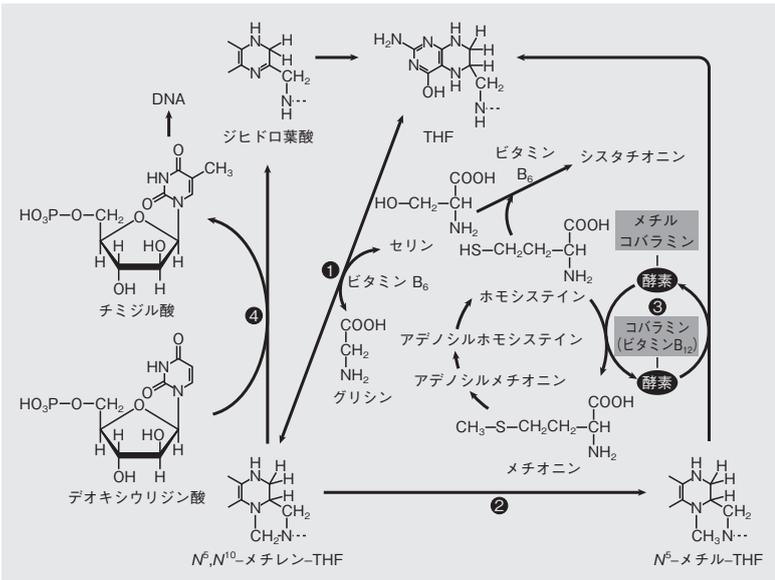
「衛生薬学—基礎・予防・臨床—」

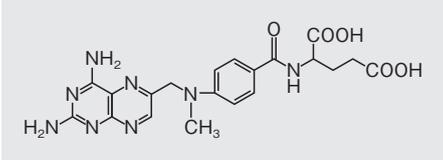
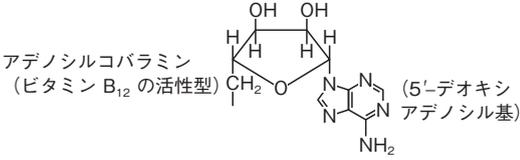
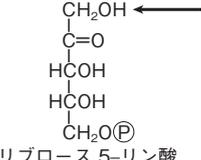
下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

(2017.3 南江堂)

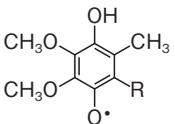
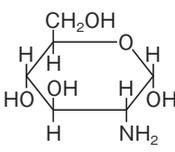
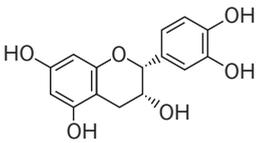
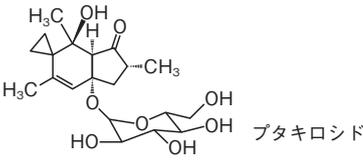
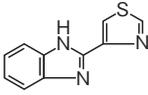
頁	行	誤	正
55	図 1-1	(↓ 3 行目右端列) 治療	治療
59	図 1-2	(⑤を下記の位置に追加) 	
94	表 2-20	(ワクチンの列 ↓ 2 行目) DPT-IV	DPT-IPV
112	↑ 1	α -ケト酸カルボキシラーゼ	α -ケト酸デカルボキシラーゼ
113	図 4-3	α -ケトイソ吉草酸	α -ケトイソカプロン酸
	↑ 6	UUPD-ガラクトース-4-エピメラーゼ欠損症	UPD-ガラクトース-4-エピメラーゼ欠損症
124	↑ 8	特定健康審査	特定健康診査
131	表 7-1	β -ナフチルアミン, ベンチジン	2-ナフチルアミン, ベンジジン
132	表 7-3	β -ナフチルアミン	2-ナフチルアミン
137	↑ 3	RNA,	DNA, RNA,
138	図 1-3(b)	((b) の上部) ジオキシアセトン	ジヒドロキシアセトン
139	表 1-1	(D-ガラクトースの構造を下図に差し替え) 	(D-マンノースの構造を下図に差し替え) 
		↓ 8	表 1-1
	↓ 5	グルコシド結合	グリコシド結合
141	図 1-6	(下図に差し替え) (※ α -D-グルコピラノースと β -D-グルコピラノースの構造修正) 	

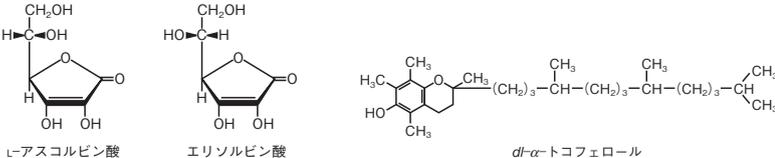
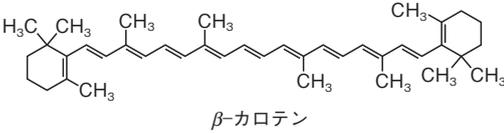
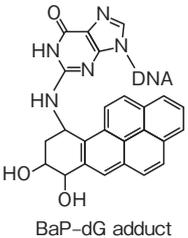
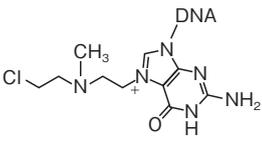
頁	行	誤	正
141	図 1-7	(図のタイトルを変更) エピマーとアノマー	エピマー
144	表 1-3	(グルコマンナンを下記に差し替え) (※ α 1-4 グリコシド結合 \rightarrow β グリコシド 1-4 結合に修正) 	
148	コラム	(文末に追加)	マーガリンに多く含まれる。動脈硬化との関連が指摘されている。
	↓ 16	炭素数が多い (鎖長が長い)	炭素数が少ない (鎖長が短い)
149	↓ 1	ホスホリパーゼなどに切り出される	ホスホリパーゼなどにより切り出される
154	表 1-9	phenylalanine	phenylalanine
156	↓ 6	中間体であるケトン体の前駆物質と	中間体やケトン体の前駆物質であるアセチル CoA と
157	↓ 3	腸内細菌の健常者であれば	健常者であれば
158	↑ 5	β -カロテンはできない。	ビタミン A はできない。
159	↓ 1・3・4	レチナール	レチノール
	↓ 11~14	ビタミン A は… (中略) …作用しない。	(削除)
	↑ 10	11-cis-retinal	11-cis-retinal
	↑ 8	が信号として視神経	が信号となり視神経
	↑ 4	ビタミン A から	ビタミン A が
161	↓ 4	シフトしたビタミン D ₂ および D ₃ が合成	シフトし合成
	↓ 14	11 位が	1 位が
163	↓ 25	フィチン基	フィチル基
166	図 1-35	(下図に差し替え) (※上段右, 中段左の構造式修正, ワルファリンカリウムの作用部位追加)	
			
167	↑ 1	アイノリナーゼ	アノイリナーゼ
171	↓ 6~7	またアミノ酸のアラニンからピルビン酸, グルタミン酸から α -ケトグルタル酸へのそれぞれの代謝にも必要となる。	またアミノ酸オキシダーゼによるアミノ酸からアンモニアを遊離させる酸化的分解にも必要となる。
172	↑ 2	300~400 mg	300~400 mg/日

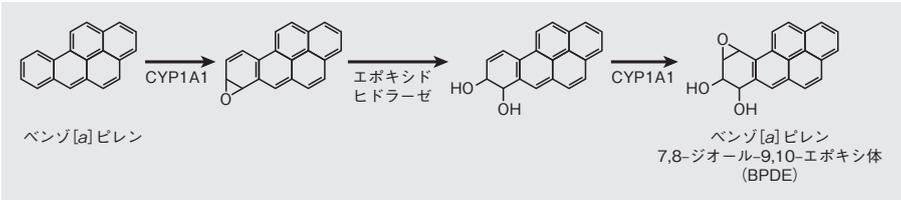
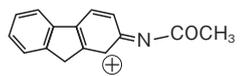
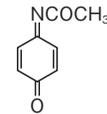
頁	行	誤	正
173	図 1-46	(下図に差し替え) 	
176	↓ 13	含まれおり	含まれており
178	図 1-56	(構造式を下図に差し替え)  <p>テトラヒドロ葉酸(THF)</p>	
	↑ 7	NADPH ₂	NADPH
179	図 1-57	(下図に差し替え) (※ THF, N ⁵ ,N ¹⁰ -メチレン-THF, N ⁵ -メチル-THF の構造式修正, 「チミジル酸」 「デオキシウリジン酸」 語句追加) 	
↓ 2		合成酵素よる	合成酵素による
↓ 6		赤血球合成に作用し	赤血球合成に関与し
↑ 7		デヒドロ葉酸レダクターゼ活性を	ジヒドロ葉酸レダクターゼ活性と
↑ 2		高ホモシステイン血症	高ホモシステチン尿症

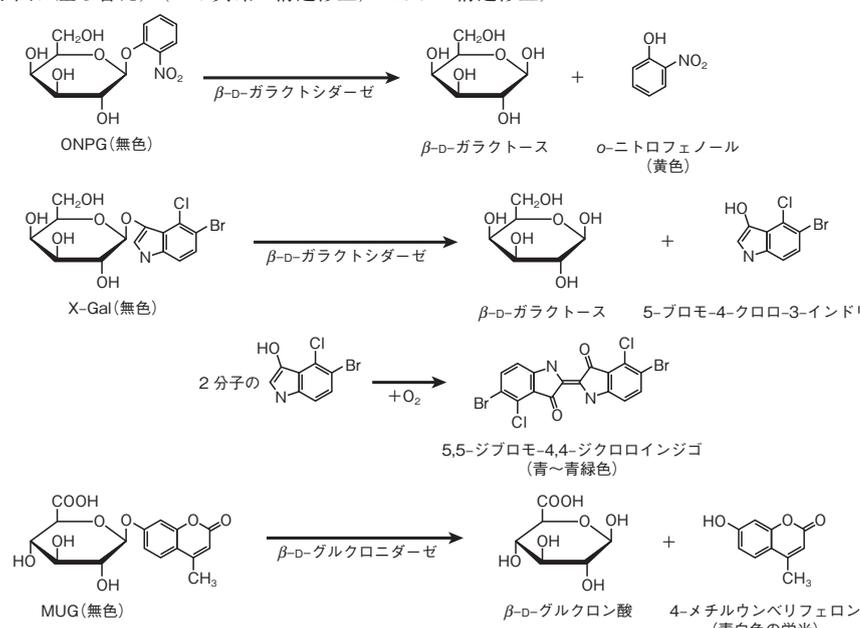
頁	行	誤	正
180	図 1-58	(下図に差し替え) 	
181	図 1-59	(アデノシルコバラミンの R 部分の構造を下図に差し替え) 	
	↓ 2	含まれおり	含まれており
	↑ 1	高ホモシステイン血症	高ホモシスチン尿症
186	↑ 7	微量ミネラル9種類で、硫黄 (S)、塩素 (Cl)、フッ素 (F) の3元素については未策定である。	微量ミネラル8種類で、硫黄 (S)、塩素 (Cl)、フッ素 (F)、コバルト (Co) の4元素については未策定である。
189	↑ 11	血液、筋肉、神経など	筋肉、神経など
195	↓ 11	取り組み	取り込み
	↑ 5	鉄欠乏性貧血	鉄不応性貧血
196	↓ 6	Zb-SOD	Zn-SOD
	↑ 12 と ↑ 11 の間	(下記文章を追加) 【含有食品】 かき、松の実、豚肉 (レバー)、牛肉の赤身など。	
199	↑ 2	尿素	尿酸
203	↓ 5	脳、神経など) はグルコースを細胞内に蓄積することができない。よってグルコースを主要なエネルギー産生源として利用している。	脳、神経など) はグルコースを主要なエネルギー産生源として利用している。しかし、グルコースを細胞内に蓄積することができない。よって
205	↓ 13・ 16・17	DDD-4	DPP-4
	↑ 8	心臓など	脳など
206	図 1-72	オキサロ酸 α-ケトグルタル酸 (C ₆) ケトグルタル酸脱水素酵素	オキサロ酢酸 α-ケトグルタル酸 (C ₅) α-ケトグルタル酸脱水素酵素
207	図 1-74	(リブローズ 5-リン酸の構造を下図に差し替え) 	
208	↓ 2	脂肪酸の分泌が	脂肪酸の合成が
	表 1-14	(トリプシンの所在) 胃液	膵液
209	↓ 11	エクソ型	エキソ型
	↑ 10	イオンタンパク質	体タンパク質
212	図 1-79	アルギノコハク酸	アルギニノコハク酸

頁	行	誤	正
212	図 1-80	(下図に差し替え) 	
213	↓ 5	排出するアミノ酸の	尿・便・汗として排出する
214	↓ 9	ほとんど小腸から	ほとんど回腸から
216	↑ 3	コレレテロール	コレステロール
217	↓ 6	CoA と	アシル CoA と
	図 1-86	(アシルカルニチンの構造を下図に差し替え) $\text{R}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\overset{\text{O}}{\parallel}{\text{C}}-\text{O}-\underset{\text{CH}_2-\overset{+}{\text{N}}(\text{CH}_3)_3}{\text{CH}}-\text{CH}_2-\text{COO}^-$ アシルカルニチン	
219	図 1-88	カルニチントランスフェラーゼ	カルニチンアシルトランスフェラーゼ
221	↓ 2	6 分子のメバロン酸	メバロン酸
224	↓ 2	トリアシルグリセロールが分解	トリアシルグリセロールの分解
	↓ 5	生じるアセチル CoA を使用して、エネルギー産生を行う。	グルコースが作られる (糖新生)。一方、
227	↓ 3	食品タンパク質の制限アミノ酸の量	食品タンパク質の第一制限アミノ酸の量
228	↑ 7	摂取窒素量)	摂取窒素量) × 100
	↑ 6	摂取窒素量	摂取窒素量 × 100
229	↓ 8	, トリプトファンを指す	を指す
	↓ 21	(トリプトファンなどの AAA	(AAA
231	構造式	(キトサンの構造を下図に差し替え) 	

頁	行	誤	正
232	図 1-94	(ユビセミキノンの構造を下図に差し替え)  ユビセミキノン	
	構造式	(グルコサミンの構造を下図に差し替え)  グルコサミン	
233	構造式	(エピカテキンの構造を下図に差し替え)  エピカテキン	
235	↑ 13	水 1 g	水 1 kg
236	表 1-24	二酸化炭素消費量	二酸化炭素生成量
	↓ 9	化学式からが	化学式から
237	↓ 4	basal metabolism	basal metabolism rate
	↑ 3	基礎代謝量 (kcal)	基礎代謝量 (kcal/日)
238	↑ 8	示す指標としては	示す指標としては
239	↓ 13	ふつう (Ⅱ) = 1.7	ふつう (Ⅱ) = 1.75
242	↑ 6	65 歳以上の BMI 20 以下を	50~69 歳の BMI 20 未満, 70 歳以上の BMI 21.5 未満を
243	↑ 3	一次予防	予防
253	表 1-34 ↓ 4 行目	マグネシウム 循環器障害, 代謝不全	(行を削除)
294	構造式	(ブタキロシドの構造を下図に差し替え)  ブタキロシド	
304	図 2-22	(チアベンダゾールを下図に差し替え)  チアベンダゾール	

頁	行	誤	正
305	図 2-23	(L-アスコルビン酸, エリソルビン酸, dl- α -トコフェロールを下図に差し替え)  <p style="text-align: center;">L-アスコルビン酸 エリソルビン酸 dl-α-トコフェロール</p>	
307	図 2-25	(β -カロテンを下図に差し替え)  <p style="text-align: center;">β-カロテン</p>	
313	表 2-5	条件付特定保健用食品	条件付き特定保健用食品
342	↑ 17	微生物	微生物
358	↓ 18	これらは	アマトキシシ群の α -アマニチンなどは,
	↓ 19	阻害して,	阻害して, またファロトキシシ群のファロイジンなどはアクチン脱重合を阻害して,
359	表 3-6	(ファロトキシシ群の中毒症状として右記追加)	アクチン脱重合を阻害してコレラ様症状を呈する
360	図 3-6	プルナシシ	プルナシシ
		Glc (※ 9 か所: アミグダリン, 酵素加水分解 (4 か所), プルナシシ, ファゼオルナチン, ドーリン)	Glc
361	図 3-7	Glc (※ 2 か所: ソラニン, チャコニン)	Glc
362	図 3-8	Glc (※ 2 か所: サイカシシ, プタキロサイド)	Glc
393	表 1-4	(CYP1A2 の典型基質) カフェイン	カフェイン, アフラトキシシ B ₁
		(CYP3A4 の典型基質) ニフェジピン, シクロスポリン	ニフェジピン, シクロスポリン, アフラトキシシ B ₁
		(CYP3A7 の主要発現臓器) 肝臓	胎児, 肝臓
		(CYP3A7 の典型基質) アフラトキシシ B ₁	デヒドロエピアンドステロン 3 硫酸 (内在性)
409	↑ 1	脱水素酵素	脱水素酵素
410	↑ 3	ジメチルカプロール	ジメルカプロール
471	図 3-2	(BaP-dG adduct の構造を下図に差し替え)  <p style="text-align: center;">BaP-dG adduct</p>	
473	図 3-6	(右端の構造を下図に差し替え) 	

頁	行	誤	正						
474	図 3-8	(下図に差し替え)  ベンゾ[a]ピレン ベンゾ[a]ピレン 7,8-ジオール-9,10-エポキシ体 (BPDE)							
475	図 3-10	(ベンゼンオキシドの構造を下図に差し替え)  ベンゼンオキシド							
478	図 3-16	(カルボカチオンの構造を下図に差し替え)  カルボカチオン							
480	図 3-18	(N-アセチル p-ベンゾキノニンイミンの構造を下図に差し替え)  N-アセチル p-ベンゾキノニンイミン							
522	↓ 13	(ウィーン条約)	(ジュネーブ条約)						
535	表 2-4	((c) 航空機の表を下表に差し替え) <table border="1" data-bbox="329 1037 826 1151"> <thead> <tr> <th>地域の類型</th> <th>基準値(単位 L_{den})</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>57 デシベル以下</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>62 デシベル以下</td> </tr> </tbody> </table>	地域の類型	基準値(単位 L _{den})	I	57 デシベル以下	II	62 デシベル以下	
地域の類型	基準値(単位 L _{den})								
I	57 デシベル以下								
II	62 デシベル以下								
548	図 3-8	普通沈殿	薬品沈殿						
552	↓ 6	あるいは結合残留塩素と呼ばれる。	と呼ばれる。NCl ₃ も概念的には結合残留塩素であるが、通常 HN ₂ Cl と NHCl ₂ の合計を結合残留塩素という。						
559	↑ 14	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素						
561	↑ 3, 2	O-	o-						

頁	行	誤	正
562	反応式	<p>(下図に差し替え)(※ 6員環の構造修正, MUGの構造修正)</p>  <p>ONPG(無色) $\xrightarrow{\beta\text{-D-ガラクトシダーゼ}}$ $\beta\text{-D-ガラクトース}$ + $o\text{-ニトロフェノール}$ (黄色)</p> <p>X-Gal(無色) $\xrightarrow{\beta\text{-D-ガラクトシダーゼ}}$ $\beta\text{-D-ガラクトース}$ + 5-ブロモ-4-クロロ-3-インドリン</p> <p>2分子の $\xrightarrow{+\text{O}_2}$ 5,5-ジブロモ-4,4-ジクロロインジゴ (青~青緑色)</p> <p>MUG(無色) $\xrightarrow{\beta\text{-D-グルクロニダーゼ}}$ $\beta\text{-D-グルクロン酸}$ + 4-メチルウンベリフェロン (青白色の蛍光)</p>	
568	図 3-14	都市下水道	都市下水路
572	↑ 4	無酸素槽および	(削除)
575	↓ 1	達成率が 99%	超過率が 0.81%
	↓ 2	6.1%	5.8%
	↓ 3	3.6% ヒ素 2.3%, フッ素 0.6%, 鉛 0.4%, テトラクロロエチレン 0.1%	3.3% ヒ素 2.1%, フッ素 0.5%, 鉛 0.3%, テトラクロロエチレン 0.2%
	↑ 3	2012 (平成 24) 年での達成率は, 河川 93.1%, 湖沼 55.3%, 海域 79.8%	2013 (平成 25) 年での達成率は, 河川 92.6%, 湖沼 55.1%, 海域 77.3%
581	表 3-19 (B) ア	生物化学的酸素要求量 (BOD)	化学的酸素要求量 (COD)
585	↑ 3	二クロム酸カリウム	二クロム酸カリウム
616	↑ 15~ ↑ 11	スギ花粉症を適応とするシダトレン®スギ花粉舌下液と, ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎を適応とするミティキュア®ダニ舌下錠の2つの製品がある (いずれも鳥居薬品株式会社). 使用法は1日1回, 舌下に必要量を滴下して2分間保持して飲み込む, あるいは舌下に1錠入れて1分間保持して	製品としては, スギ花粉症を適応とするシダトレン®スギ花粉舌下液 (鳥居薬品株式会社) と, ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎を適応とするアシテア®ダニ舌下錠 (塩野義製薬株式会社) およびミティキュア®ダニ舌下錠 (鳥居薬品株式会社) がある. 使用法は1日1回, 舌下に必要量を滴下して2分間保持した後に飲み込む, あるいは舌下に錠剤を入れて完全に溶解するまで保持した後 (アシテア®) か, 1分間保持した後 (ミティキュア®) に

